

小学校 音楽

音楽科における改訂のポイント

1 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善について

児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図る際には、音楽的な見方・考え方を働かせ、他者と協働しながら、音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさなどを見いだしたりするなど、思考、判断し、表現する一連の過程を大切に学習の充実を図ることが重要です。

- (1) 題材など内容や時間のまとまりの中で、以下の視点で授業改善を進めること
 - ア 主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するか
 - イ 対話によって自分の考えを広げたり深めたりする場面をどこに設定するか
 - ウ 学びの深まりをつくりだすために、児童が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか
- (2) 題材のまとまりを見通した学習を行うに当たって
 - ア 基礎となる知識及び技能の習得に課題が見られる場合には、それを身に付けるために、児童の主体性を引き出すなどの指導の工夫を重ねながら、確実な習得を図ることが必要。

2 「音楽的な見方・考え方」について

※音楽科における学びの深まりの鍵となるものです。

「音楽的な見方・考え方」

児童が自ら音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、捉えたことと自己のイメージや感情、捉えたことと生活や文化などを関連付けて考えること

※学習過程や学習活動において、音楽的な見方・考え方を働かせることができるよう、効果的な指導の手立てを工夫することが重要です。

3 音楽科の特質に応じた言語活動の充実

他者と協働しながら、音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさなどを考えたりしていく学習の充実を図る観点から、音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り、音楽科の特質に応じた言語活動を適切に位置付けられるようにすることが必要です。

気付いたことや感じ取ったことなどについて互いに「交流」
音楽の構造について「共有」
感じ取ったことに「共感」

客観的な理由や根拠を基に友達と交流し、自分の考えをもち、音楽表現や鑑賞の学習を深めていく過程に音楽科としての学習の意味があります。

音楽科における学習評価のポイント

1 音楽科における評価の観点について

○ 3つの柱で整理された育成を目指す資質・能力に対応するように、評価の観点も以下のように3観点到整理して示されています。

【旧】

評価の観点
音楽への関心・意欲・態度
音楽表現の創意工夫
音楽表現の技能
鑑賞の能力



【新】

評価の観点
知識・技能
思考・判断・表現
主体的に学習に取り組む態度

2 「知識・技能」の評価

「知識」では、曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解しているかどうかを評価します。
「技能」では、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌ったり、演奏したり、音楽をつくったりしている状態を評価します。

※知識と技能を個別に評価したり、一体的に評価したりするケースが想定されます。

〈評価方法例〉 領域：「A 表現」（歌唱分野）

「知識」：歌唱の活動において、「とんび」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付いているかについて、その学習状況を評価する。〈発言内容・ワークシート〉

「技能」：学習したことを生かし、思いや意図に合った表現をするために必要な、呼吸に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付けて歌っているかを評価する。〈演奏聴取〉

3 「思考・判断・表現」の評価

音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと、感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもったり、曲や演奏のよさなどを見いだし、音楽を味わって聴いたりしているかどうかを評価します。

〈評価方法例〉 領域：「A 表現」（音楽づくり分野）

・音楽の縦と横との関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、旋律を工夫し、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについての思いや意図をもっているかを評価する。〈発言内容・ワークシート〉

4 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

音や音楽に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしているかどうかという側面を評価します。

※その際、2つの側面を評価することが求められます。

- ① 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面
- ② ①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面

〈評価方法例〉 領域：「B 鑑賞」

- ・祭り囃子の体験を振り返り、音楽の特徴について話し合う場面では、地域の祭り囃子を紹介するという目的意識をもったり、これまでの学習を生かしたりして鑑賞の学習に取り組もうとしていたりしているかについて、発言の内容、観察（表情・行動）から評価する。〈観察〉
- ・授業の終末に、これまでの学習の振り返りを書く場面では、友達から学ぼうとしていたか、聴き方が深まったことを自覚できているかについて、本時の振り返りの記述から評価する。
〈ワークシート〉

※「主体的に学習に取り組む態度」の見取りのポイント…

題材を通して継続的に見取っていくこと、観察を中心に発言やワークシートの記述も加味していくこと、知識などの評価との関連を図ること、評価を記録に残す際には題材終了時の姿で最終的に判断すること、「自身の変容を自覚できる場面」の設定 など

【参考資料】

- 小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 音楽編
- 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（小学校音楽）